



## ◆農薬登録変更のお知らせ

防除基準で使用している下記農薬の登録変更がされましたので、お知らせいたします。

1. 対象農薬：パダンSG水溶剤
2. 変更内容： [変更前]

→ [変更後]

作物名	使用時期	使用回数
大粒種ぶどう	収穫21日前	5回

作物名	使用時期	使用回数
ぶどう	収穫14日前	2回

### 3. 変更に伴う留意事項

- 1) 防除基準では、年2回の使用になっているため、それ以上は使用できない。
- 2) 収穫前日数が短縮された。
- 3) 「大粒種ぶどう」のみの登録であったが、「ぶどう」に変更になったため、「小粒種ぶどう」デラウェアでも使用できる。

## ◆当面する重点作業

1. 棚の整備を行う。
2. せん定作業を水揚げ前までに実施する。
3. 粗皮削り(剥ぎ)・巻きひげの除去などを行い、病虫害の密度を減らす。
4. 芽キズの処理を適期に行う。
5. 3月下旬になったら苗木の定植を行う。

## ◆棚修繕管理講習会の開催について

表記の件につきまして近年棚が緩み支柱の本数が多く設置されている園が多数散見されており、各種管理作業の弊害となっております。つきましては下記日程により講習会を開催致しますので、ご都合のよい会場へご出席ください。

開催月日	曜	開催時間	集合場所	担当
3月5日	水	午前9:00	現地圃場 ※午前8時45分までに「篠ノ井東部流通センター」に集合ください。	伊藤
3月6日	木	午前9:30	現地圃場 ※午前9時10分までに「松代総合センター」に集合ください。	伊藤

※出席数により集合場所から乗り合わせをお願いする場合があります。

## ◆わら巻について

今後の温度差(一時的に気温が上がり暖かくなってから寒の戻りにより急に気温が下がる)により凍害の心配がある。2月中旬頃より耐寒性が低下するので注意する。

## ◆仕上げせん定(1芽せん定)の実施について

時期が遅くなると、発芽が不揃いになる。気温状況により水揚げが早まる場合があるので、2月末までに(樹液が上がり始める前)早めに実施する。

## ◆種あり巨峰の枯れ込みが多く

### 芽数が少ない樹の対応について

芽数が少ないと発生した新梢が強くなり、結実が悪くなる事が予想されるので、結実不良が心配される樹は、種なしでの栽培をお勧めする。結実の心配がなくなる。

ただし、栽培方法が異なるので、必ず果樹技術員にご相談ください。

## ◆耕種的な防除作業の徹底励行について

ぶどうの主要な病害虫は、ほとんどが結果母枝(種枝)上の巻ひげや切り残しの果梗、粗皮の下などで越冬している。このため巻ひげや切り残しの果梗除去、**主幹・主枝・亜主枝・短梢剪定の芽座の粗皮けずり**、落葉の処理が薬剤散布とともに重要な防除作業となる。これらの管理や処理をしてない園は早急を実施する。また、**高圧洗浄機による粗皮剥ぎ技術**がありますので、ご不明な方は各技術員まで。お買い求めは各資材センターまでご相談ください。

### 1. 越冬病害虫と越冬場所及び耕種的防除方法(作業)

病害虫名	越冬場所	耕種的防除方法
黒とう病・晩腐病	結果母枝・巻ひげ・果梗	巻ひげ・果梗の除去
べと病・さび病	落葉	土中に埋めるか焼却
ブドウトラカミキリ ブドウスカシバ	被害枝	園外に出すか焼却
カイガラムシ類	粗皮の下	粗皮けずり

### 2. 粗皮削り(はぎ)実施上の留意点

病害虫の越冬は主幹主枝が分岐した下腹部に多い。**また、短梢剪定樹は、芽座のガサガサした部分にも多いため、特に注意する。**厚手のゴム手袋でゴリゴリこすり落とす程度で良い。黄褐色の皮部が出る位にむき取るのはやり過ぎである。なお、主枝・亜主枝の背面(上側)は日焼け障害を起こすので、ごく軽くにとどめておく。粗皮のゴミ(粉)を目に入れないよう気をつけて行う。

## ◆芽キズ処理について

県基準では「目キズ」と表記していますが、ここでは現状のままとします。

### 1. 芽キズの目的

先端枝の太く長い種枝については、中間～基部の発芽が悪いので芽キズを入れ発芽を良くし、枝(樹)を落ち着かせることが大切である。

### 2. 芽キズの入れ方

1) 芽の上(先の方)0.5～1cmの所へ入れる。(下図1、参照)

2) 形成層(木質部)に達するよう直線～逆V型にする。

※芽キズバサミ・接木ナイフ等を利用する。

3) 極太い新梢には、一の字の芽傷でなく二の字の効果が高い。

### 3. 芽キズの処理場所

1) 長梢せん定 先端部分と新梢基部には必要無く、中間部分に丁寧に行う(図1参照)

2) 中梢せん定 主枝・亜主枝延長枝(1年枝)の中間部分に丁寧に行う。

3) 短梢せん定 主枝延長枝(1年枝)で先端3芽以外は全ての芽に芽キズを入れて必ず発芽させる。

### 4. 処理時期と管理

1) 2月下旬～3月初旬頃に行う。

2) 水上げ後は傷口から樹液が出て芽を傷めることもあるので注意が必要である。

3) 剪定後の切り口、芽キズの切り口に、乾燥防止のためトップジンMペーストを塗布する。

- 4) 処理が遅れた場合はメリット青の塗布のみでもよい。  
 メリット青の2倍液（メリット青と同量の水で薄める）を芽キズ処理前に結果母枝全体に塗布すると、更に発芽率が良くなる。

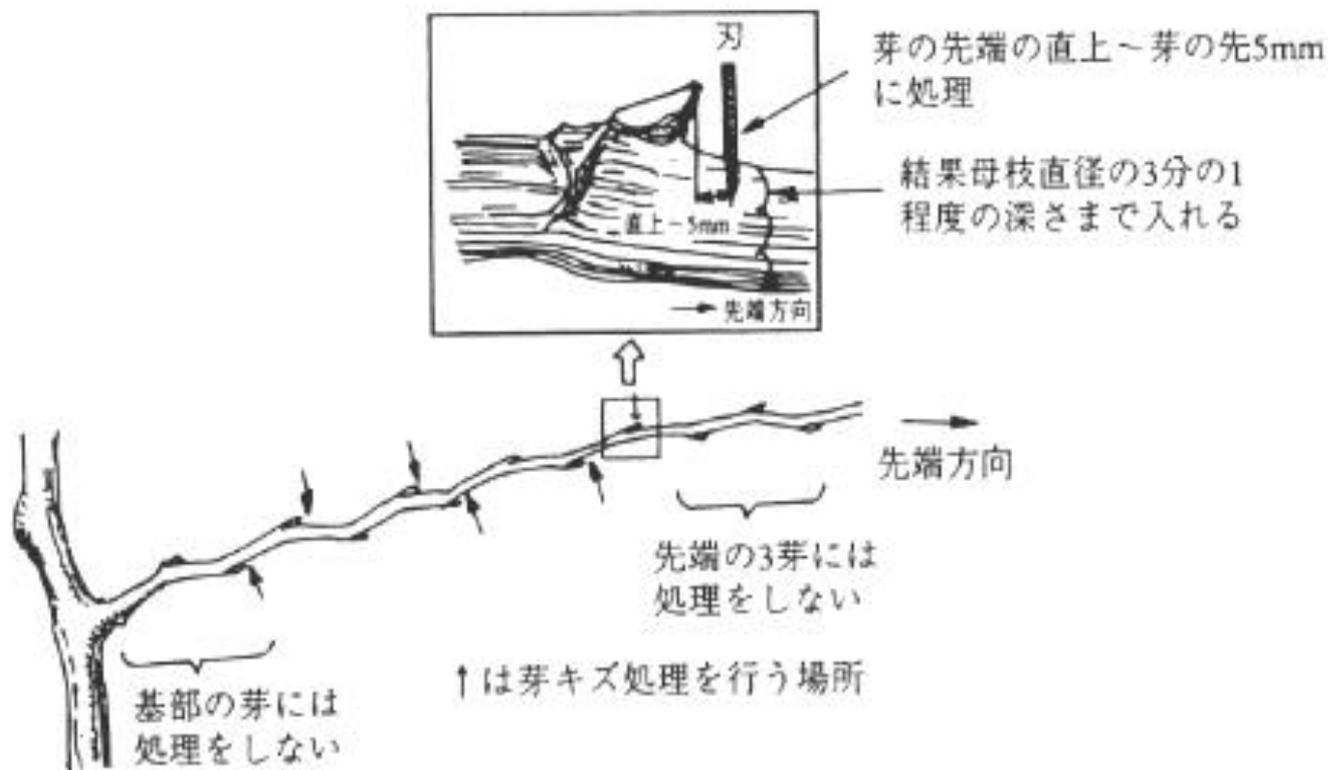


図1 芽キズ処理方法（長梢せん定）

## ◆苗木・若木の定植、移植について

1. 苗木の定植
  - 1) 3月中旬～4月上旬に行う。
  - 2) 接木苗は台木部が必ず地上部に出るように注意する。
  - 3) 活着するまでワラ等でマルチを行い、乾燥を防ぐ
  - 4) なお、植え穴に完熟堆肥とスミクリンを施用し発根促進と徒長防止をはかる。
2. 若木の移植
  - 1) 若木の移植の時期は、催芽期（りん毛が見え始めの時期）
  - 2) 4月上旬～中旬頃を目安に行う。芽は少し落ちるが活着が良い。
3. 留意事項
  - 1) 乾燥防止
    - ①春は、乾燥しているので運搬・植え付け時などでもシートをかけて、直射日光や風に当てないようにする。
  - 2) 吸水
    - ①乾燥しているので定植前には十分に水を吸わせる。1日から少なくとも半日。
    - ②2日以上水に浸けておくと酸欠による根腐れを起こす場合があるので注意。
  - 3) 植穴
    - ①深さ30～50cm 直径1.5～2mと大きめにする

#### 4) 根の処理

- ①長い根の先端は切り詰め、植穴全体に広げる。
- ②根が2段にならないように、上部の根は切り落とす。

#### 5) 高さ

- ①深植えとならないように、台木の部分は10cm程度地上に出す。

#### 6) かん水

- ①土と根を隙間なく馴染ませるように、かん水をたっぷり行う。
- ②春は、乾燥するのでかん水を定期的に行う。

#### 7) 盛り土

- ①しっかりと盛り土を行う。沈む分も考慮する。
- ②水が溜りやすい園は、根腐れとならないように、周囲の状況（水田・水路など）も考慮し、排水対策も行う。

#### 8) 除草

- ①草を取り除き、根が伸びる場所を確保する。マルチなども有効。

#### 9) 支柱

- ①固定し、枝が折れないようにする。また、草苳等で傷つけないよう目印にする。

#### 10) 切除

- ①生育の良い苗木は地上30～60cm程度で切り返す。
- ②生育の劣る苗木は、充実した芽の部分まで強く切り返す。  
間違っても、台木まで切り返さないよう注意するとともに、新梢伸長時に、台木を伸ばさないようにする。